



井上 涼子 建設部門（建設環境）

勤務先：明治コンサルタント株式会社

私は1970年（昭和45年）神奈川県横浜市で生まれ、高校まで横浜で育ちました。中学生の頃から、自分で稼ぐ事に興味があり、独立心旺盛な子供でした。テレビ番組の「ムツゴロウ動物王国」が好きで「中学卒業後に弟子入りする！」と親に明言したこともあります。また、「海外青年協力隊の活動」やNHKの「〇〇事業にける男達」などの番組も好きで、いつか「名の在る物」になりたいと思っていました。大学で北海道に飛び出したのも、そんな思いの表れだったと思います。大学生活は茨戸川で4年間ボートを漕ぎ、北海道の自由と自然を満喫しました。現在も休日には茨戸に行くのが唯一の楽しみです。

平成5年に会社に入り、10年ほどは多自然型川づくりの調査に携わりました。その時にカワセミ護岸の改良工法を用いた工事に計画段階から携わることができ、その運で技術士を取得することができました。しかし正直に言って、技術士を取得してからはつらい仕事が多くなりました。何より責任が重くなる事がつらいのですが、技術士の「気品」や「風格」といったものを身に着けた様に振舞う事が大変です。

現在も、ただひたすら目の前の仕事をこなしている状態ですが、いつかこの経験が自分のものとなり、自然と社会のお役に立てるような技術士になることを目指し、日夜努力したいと思います。皆様、今後とも宜しくお願い致します。



次号は、米川 康さん（応用理学部門）



岩成 正勝 水産部門（水産土木）

勤務先：パブリックコンサルタント株式会社 海洋港湾部

兵庫県神戸市生まれ。須磨の海と山で遊ぶ少年時代を過ごしました。高校時代はバブル景気の絶頂期、身の回りでは物や情報が溢れ、高校生の私でも何かに追い立てられるようなおかしい錯覚に襲われました。そんな中、進路を決めるにあたり、どんな世の中になっても人間が生きていく上で必要なのは食糧、間違いなく食糧の時代が来ると思い込んで、海と魚好きも高じて水産の道を選びました。そして平成2年の春、一度も訪れたことのなかった憧れの北海道に上陸したのでした。学生時代は、体育会ヨット部に所属し、小樽市祝津で潮気たっぷりの4年間を過ごしました。また、学生の本分である学業ですが、学部移行後は漁業学科漁具設計学講座の配属となり、大型回流水槽を用いた網漁具の模型則に関する研究を行いました。

社会人となり入社した現在の会社では、漁港・漁場施設の計画や調査、設計を主に行っています。その中でも印象に残っている仕事は、函館市戸井でコンブやガゴメなどの流れ藻を捕捉してウニの餌料として供給する流れ藻礁の開発や現在も継続している磯焼け対策技術としての人工動揺基質の開発が挙げられます。

私は水産部門の技術士となって気持ちを新たにすることがあります。この先20年、30年後、これまでお世話になった漁業者さんやその家族が変わらずその地に住み、漁業を営みながら明るく健康的に暮らせることを目指し、自分の仕事としての「ものづくり」が地域の一隅を照らせるよう努力して参りたい。



次号は、田中 淳さん（建設部門）